

MeiSeiZei

名古屋青年税理士連盟会報

今日は何曜日なのかわかりますか?学校に通っていた頃は時間割などがあり、今日は何曜日なのかを感じる事ができました。社会に出てからは、毎朝の新聞を読むとき、あるいはカレンダーを見て確認をする人も少なくはないと思います。また最近では、多くの人がデジタルツールを駆使してスケジュール管理し、それによってカレンダーの確認をする人もいないのでしょうか。

このように、大人が曜日の感覚に疎くなったのは毎日仕事に追われ、時間に追われる生活を送っているからなのでしょう?最近はずいぶん、ゆとりをもって生活をするようになってきたと言われる日本人ですが、過去には「セカセカ度世界一」といわれたこともあるようです。時々、テレビのバラエティ番組で見かける横断歩道で行われる歩行者信号によるシグナルグランプリ、あるいは実際の街中で信号待ちから自動車の急発進などはそのセカセカ度の度合いを測定する測定基準のようなものと考えられます。このことから、「セカセカ度」は単にセカセカの度合いだけでなく「イライラ度」も同時に表していると思われます。このセカセカ・イライラの原因をたどると「時間(とき)」にたどり着くのです。いや、「時間(とき)」にたどり着くことにしましょう。

「時間(とき)」の歴史について、日本書紀では、後の天智天皇、中大兄皇子が漏刻(ろうこく)という水時計を設置したとことが記されています。その後、フランシスコ・ザビエルによって日本に時計を持ち込まれるまでは、日が昇ったら起き、日が沈んだら寝るといったおおまかな時間感覚の時代でした。その後の江戸時代では、昼と夜をそれぞれ6等分する不定時法が使われるようになり、時刻になると決まった数の鐘をたたい、多くの人に時刻を知らせる時代でした。明治の改暦によって、不定時法から、定時法に変わり、現在は世界の時刻制度に合わせるようになったとのこと。

現在の時刻制度に合わせるようになっただけなのに(?)、どうして日本人の時間感覚は、時代が進むにつれどんどん「セカセカ度」は上昇してしまったのでしょうか。チョッと考えてみました。すると2つの自分が見えてきました。

コンピュータの出現、普及とともに到来した高度情報化時代の中にいる自分。

コンピュータの普及により、生活の利便性は向上し、スピードの時代にもなりました。この原稿を書いている(?)横からは“チャカチャカ”とキーボードを打つ音がせわしく聞こえてきます。この“チャカチャカ”音の速度はスピードを表し、「セカセカ度」につながっているのかも知れません。今ではコンピュータに頼り、コンピュータを使用し、コンピュータに操られている自分がここにいます。そして何かを調べるのにも書籍に頼るのではなく、インターネットの検索に頼る自分がいます。まさに、この原稿の情報の多くがインターネット上で検索したものです。

大人になり、過ぎていく時間を短く感じる自分。

楽しい時間は短く感じ、そうでない退屈な時間は長く感じる。時計では同じ時間でも、短く感じたり、長く感じたりすることについて、ある心理学者によれば、「時間=仕事量+力」というものなのだそう。

面白いことや好きなことをやっている時は、そのことに夢中になり、そこに力を集中することになるので時間は短く感じる。その逆でつまらないことや「嫌だなあ」と思うことをやっている時は、力が入らなくなるので時間は長く感じるようになる。名古屋税のある部会では長く感じた時間、部会後にみんなで行く食事、この時間は過ぎるのが早い。そして今の自分は、後者の気持ちで「あー、この原稿を仕上げなきゃ」だが、なぜか刻々と時間は過ぎていく…、早い。

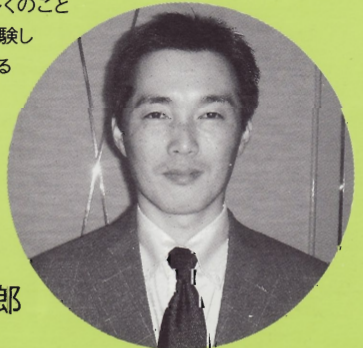
また、時間を仕事量と力の関係ではなく、時間と経験の関係にあるとする別の心理学者もいます。これはこれまでに過ごした時間を振り返り、同じ時間の中で多くの変化がある場合には、時間は長く感じられ、変化が少ない場合には時間は短く感じられるということなのだそう。

子供の頃は見ること、聞くこと、体験することの大半が新鮮で、同じ時間の中で多くのことを経験しているから、変化が多く時間が長く感じられて、大人になると、多くのことを経験してもそれは今までに体験したことがあることがあり、変化が少なく時間が短く感じられるということらしいです。

この一年、名青税活動では多くの新たな体験しました。その時間は長くもあり、短くも感じられ、それは自分にとって有意義なものでありました。是非、みなさんも名青税活動を体験し、その時間が短いのか果たして長いのかを体感してみてください。

誰もが平等にもっている大切な「時間(とき)」、自分はどのように過ごすかをじっくり考えてみたいと思います。果たしてその時間は短く感じるのか、それとも長く感じるのでしょうか。

田中聡一郎



SPRING 2009
No. 188

「時(とき)間」

CONTENTS

01-組織・広報部副会長挨拶

02-研究部 制度部 合同研修会

03-新入会員歓迎会 & アンケート報告

04-全青税 秋季シンポジウム・懇親会

06-名青税シンポジウム・新年会

08-名古屋税理士会役員との懇談会議事録

09-無料税金相談

& アンケート報告

10-IMFORMATION

<http://www.meiseizei.gr.jp/>

第44回 定時総会

日時：平成21年5月16日(土)

場所：名古屋税理士会ビル

いよいよ新年度が始まります。
今年1年の活動を充実させるためにも
会員の皆様のご参加をお待ちしております。

第44回 定時総会懇親会

日時：平成21年5月16日(土)

場所：ルブラ王山

新年度をむかえ、会員同士の親睦を深め新しい気持ちで
今年の目標を語り合いませんか？

理事会報告

第7回理事会

日時：平成20年10月23日(木)

場所：名古屋都市センター

1. 名青税シンポジウムについて
(研究部・制度部)

第8回理事会

日時：平成20年11月20日(木)

場所：名古屋都市センター

1. 名青税新年会員大懇親会について
(厚生部)
2. 無料税金相談会開催について
(組織・広報部)

第9回理事会

日時：平成21年1月22日(木)

場所：名古屋都市センター

1. 名青税規約改正について
(総務部)
2. 新入会員勧誘用リーフレットについて
(組織・広報部)

「名古屋大会のごあんない」

2009年第42回全青税総会は名古屋で開催されます

2009年8月1日(土) 名古屋東急ホテル

会員の皆様のご協力をお願い申し上げます。成功に向けてみんなで盛り上げていきましょう!

「いりゃ～せ 名古屋!」

編集後記

本年度最後の広報誌を無事発行することができホッと
しております。これまで差ほど意識せずに見てきた広報誌が多くの
人の目を通し、掲載写真の検討や文字のチェック等を受けて出来
上がってきたものだということを実感した1年となりました。

この1年、名青税の全ての行事に参加させていただき、1つ1つ
の行事が各担当の部の努力の集大成であると感じました。行
事に参加されなかった会員方にも広報誌を通じて各担当部の“熱
い気持ち”をお伝えできていたら幸いです。広報誌は窓口こそ組

織・広報部ですがその中身は名青税全会員で構成しているものだと
感じています。

最後になりましたが、写真撮影の際ご迷惑をおかけすることも
多々ありましたが笑顔で協力してくださった会員の皆様ありがとうご
ざいました。そしてお忙しい中、原稿を執筆していただいた会員の
皆様、各号担当のわがままな要望にお付き合いしていただいた
(株)真清社様、本当にありがとうございました。

一色 陽子

名古屋青年税理士連盟

〒464-0067
名古屋市中区池下二丁目8-18 仲田ビル1F
<http://www.meiseizei.gr.jp/>

編集責任者／組織・広報担当副会長 田中聡一郎
発行所／名古屋青年税理士連盟 組織・広報部
印刷所／有限会社真清社